

千葉県国土利用計画地方審議会第4回国土利用計画調査検討部会 議事録

開催日時：平成29年6月30日（金）
午後2時00分から4時00分
開催場所：ホテルプラザ菜の花
4階 楨1

司 会	<p>それでは、定刻となりましたので、ただいまから千葉県国土利用計画地方審議会第4回国土利用計画調査検討部会を開会いたします。</p> <p>私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、事務局、政策企画課の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、お配りしております資料を確認させていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 会議次第・ 出席者名簿・ 座席表 <p>資料1 第5次千葉県国土利用計画・土地利用基本計画の基本的な方向性について（案）</p> <p>資料2 県土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標の設定に向けて</p> <p>資料3 今後の主な議事の予定（想定）</p> <p>参考1 第4次国土利用計画の評価（案）</p> <p>参考2 第4次国土利用計画における県土の利用目的に応じた区分ごとの規模の目標 算定資料</p> <p>参考3 千葉県国土利用計画地方審議会国土利用計画調査検討部会設置要綱</p> <p>以上でございます。配付漏れはございませんでしょうか。</p> <p>なお、本部会は、お手元に配付してございます設置要綱第8条に基づき、公開することとされております。また、部会の議事概要につきましても後日公開する予定ですので、ご了承願います。</p> <p>では、早速ではございますが、次第にしたがいまして、議事に移らせていただきます。</p> <p>ここからの会議の進行につきましては、千葉県行政組織条例第33条第7項で準用する第32条第1項の規定によりまして、部会長にお願いしたいと思います。池邊部会長よろしくお願いいたします。</p>
池邊部会長	<p>それでは、早速議事に入りたいと思います。</p> <p>はじめに、本部会への「報道関係者」及び「傍聴者」の参加について確認します。本日の部会に、「報道関係者」及び「傍聴者」は参加していますか。</p>

司 会	<p>本日は、報道関係者の方及び傍聴者の方もいらっしゃいません。</p>
池邊部会長	<p>それでは、議事に入らせていただきます。 今日は前回の議論を受けまして、一つはそろそろ中身というか具体的な規模の目標ということで、「県土の利用目的に応じた区分ごとの基本的な方向、規模の目標について」ということで、もう一つは、「県土利用の課題解決に向けた方策・措置について」ということでございます。前回の議論を受けてこちらの方の資料は大分手を入れていただいたということでございますので、一括で御説明を事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>(説明)</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございました。 それでは資料1、前半は前回やったところで、後半は今日御説明いただいたところもありますけれど、質問があれば、まずは資料1について承りたいと思いますけれど、何かありますか。 とりあえず前半、前回の皆様の御意見を踏まえて、修正いただいた部分についてはいかがですか。 概ね御意見が反映されていると思いますが、まだこんな面が足りないとかという意見があれば御指摘いただければと思います。</p>
中村委員	<p>住宅なのですけれども、この間の議論の中で人口の減少、ここでも3割減になっているのですけれども、大体高齢化率が30%となっておりますけれど、今現在25%くらいと言われているので、たぶんそれくらいにはなっていると思います。それに伴い出生率は減少しているので、人口が減少していくのは間違いないと思いますが、都市は新しい街をつくることによって活性化している部分は確かにあると思います。例えば鉄道の便のいいところですか、大型スーパーができてその周りに住宅ができるとか、そういうふうな活気がある場所につくることによって、人が集まり、そこで街が活性化していくというのも確かにあると思うので、空き家対策だけではなくて、新たな街づくりを支援し、両面が必要なのではないかと思います。確かに人口は減少していくのですけれども、かといって新しい人を呼び込む努力をしなくていいのかといったらそうではないと思います。千葉は結構便のいいところなので、地方の方から東京にやってきた人たちが千葉に住むこともたぶんあるでしょうし、もっと人口が増えていく要因はあると思うので、交通の便のいいところの宅地は開発していかなければいけないのではないかと、基本的には思いますけれども、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>そこを否定しているわけではありません。宅地という部分で見えようと課題が人口減少等に焦点が当たってしまったのですが、5ページの</p>

	<p>基本方針の「(1) 人口減少・高齢化局面におけるスマートな県土利用」のところで、都市機能を集約してネットワーク化していこうという話、まさに中心部に集めて便利な機能をもっと集積させていこうという話もありますし、人口が増える部分というのもあると思うので、都市の生産性の向上のために高度利用を推進していこうというのでも書かせていただいております。宅地の部分で、確かに減少の部分しか捉えられていなかったというのもあるかもしれないので、都市の高度利用であるという部分とか、利便性を向上させていくということについても、何が書けるか分からないのですけれども、検討していきたいと思います。</p>
<p>中村委員</p>	<p>あと、昔ながらの住宅と今の住宅の一番の違いは道路だと思うのです。昔の道路は4 mから5 mがすごく多いのですけれども、今は大体6 mなのです、車社会なので。その道路の部分抜きにして、古い住宅地に新しく来た人が住むかといったら、なかなか難しいものがあるのではないかと思います。その辺をどうやっていくのかは分からないのですけれども。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>私は、空き地再生とか地域再生とか実際やらせていただいているのですけれども、新しいものをつくれれば日本人はどんどん新しいところに行くことで、まさに活性化してきた部分もあるのですけれども、千葉の場合はやはり広域に行き過ぎたという部分もあるので、高度利用とか庭付き一戸建てみたいな形で、千葉県の場合には結構宅地が増えてきたので、それが最近ですと総武線のところ、市川は一時全然そういうのは少なかったのですけれども、どんどん高度利用化が図られてますし、やはり一度開発したところ、千葉ニュータウンとかもそうですけれども、私も今多摩ニュータウンの再生のところに入っているのですけれども、そういうところを再度見直して、新たな宅地利用をいわゆる造成する、自然地を宅地に変換するのではなくて、既に宅地になっているところの利便性だとか高度利用だとか、まさに道路整備だとかそういうところを図るということで、千葉の場合にもこここのところ様々な道路がいろいろ開通しましたので、それに従って、ここで言う「その他の土地利用」に当たるのかもしれないのですけれども、大規模商業施設ですとか、研究開発施設、物流施設、そういうものについては、既に新しいものとして林地や農地の部分を「その他の土地利用」で吸収しているかと思うので、宅地そのものを増やすかという、今の人口減少の場合ですと、全国の方向性というところからすると、房総の方でもいわゆる買い物難民とか医療難民とか発生しているところも知っていますけれども、より空洞化を厳しくして、新しいところをつくれれば、おっしゃるように、若い人たちが皆さんそっちに住んでしまうので、そうすると今まで居たところが枯れてしまうということがあるので、そこは少し空き家対策かということではなくて、再利用というか、どう促すかということだと思います。</p>
<p>中村委員</p>	<p>確かに今まであった住宅地がどんどん過疎化していってしまうとい</p>

池邊部会長	<p>うのはなんとか減少させないといけないという面はあるのですけれども、その再生はかなり大変ですよ。</p> <p>そうなのですけれども、そこに今まで日本は技術開発もスキーム開発もしてこなかったので、千葉では2か所くらいの団地、東京、赤羽辺りでも1か所やっていますけれども、みんな中も全部リニューアルして、家賃も3万円くらい上げて、実際若い方々が入っていただくような家があって、そのためには一番大きな新浦安でやった事例は6億ぐらいの投資をして、その結果として、市場家賃くらいのものが取れるようになって、おっしゃるような、新しい、今までには入っていなかったような新住民の方々が駅前ということもあって入ってきて、まさに活性化するということが起こっているのです、その辺はたぶん道路とかストックをそのままというのは難しいところがあるので、建て替えだとかそういうところも図って、それから今回の震災の話も出てきていますけれども、やはり国土の強靱化ではないですけれども、おっしゃるように道路も住宅も一昔前のものは耐震基準に達していないようなものも多くありますから、そういうところを見直して、都内でやられているような、逆に再開発みたいなものを、じゃあ今回の再開発はどういったものが考えられるかということも、千葉の新しい課題なのかなと思います。</p>
中村委員	<p>交通利便性のいいところの再開発はどんどん進めていくべきですし、幹線道路沿いに新たに住宅地が置かれていくのも仕方ないことですし、既存の集落で、そこが幹線道路沿いでもなく、また大型スーパーもなく、どうしようもなく廃れていってしまうところも出てきてしまうのではないかと思うのですね。そういうところの全て宅地を新規に開発するのがいけないというのではなく、再利用できるところは再利用して、とおっしゃってらっしゃるのですよね。</p>
池邊部会長	<p>そうです。</p> <p>今、うちの准教授の先生が千年村というプロジェクトをやっていて、 <small>わみょうるいじゅしょう</small> 「和名類聚抄」の地名の中に残っている、千年ずっと集落が変わらず人が住んでいるところ、千葉県内は非常に多いんです。豊かだということを含めて。ですからそういうところについては、そういう中でも過疎化して限界集落になっているところもあれば、そうでないところもあるので、そういうあたりをどういうふうにやっていくかということ、千葉の場合はベッドタウン化してしまったために、逆に今空洞化しているという部分があるので、そういう先生のおっしゃるような新しい方々が、今度の国土利用の中だと田園の区域みたいな形で、やはり農地だとか林地だとかが側にあることでより定住の意識の高い人が来てもらえるようなことがどこまで図れるかということだと思います。</p>
志賀委員	<p>いくつかパターンがあるような問題に関しても、多摩ニュータウンみ</p>

	<p>たいなところもあれば、房総の千年村みたいなところもありますよね。私が住んでいるのは流山なんですけれども、明日から祭りがあって、流山の駅前で一分もかからないようなところなのですが、そうすると年寄りばかりで子ども神輿を担ぐ人がいないというような問題もあるのですよね。そうすると流山全体としてみればおおたかの森とかありますけど、自営業なり昔から住んでいた人のところでかなり流動性が高まっていますから、そうすると年寄りが一人とか二人とかで、あと二十年たつとどうなるんだということで、当然空き地になりますよね。空き地になると大変で、その前の段階で何ができるのかというのがすごく重要だと思っています。</p>
池邊部会長	<p>あとでも関係してくることですけれど、今回の算定が例えば平成4年から平成16年というところをやっていますけれど、そのトレンドと今回のこれから37年までというのは著しく違うし、そこで一回開発を起こしてしまうと、次の世代は誰も継ぐ人がいないというところをもう一回作ってしまうことになるので、そのあたりはまだ全国的にも難しい課題だと思えますし、特に千葉のような農地、林地がそれなりに豊かな、今手を入れれば、まだまだ手が入るといって、要するに日本列島の中でも劣悪な交通条件のところ、農地や林地が放棄地になってしまうのは仕様がなと思いますけれど、千葉の場合にはそうではないので、やはりそこは逆にその部分の活性化みたいなものをより図るべきなのかなと思うのですけれど。</p> <p>そこはまたあとで、例えば県土利用の割合が25%、4分の1が農地に近かったわけですが、それが4分の1割っていいのかという問題とか、森林が30%に平成27年になっている。じゃあ今後30%をキープしていくのかとか、そのあたりも形成に携わっていらっしゃる方が県の産業の優先順位みたいなものを含めてお考えいただくことだと思うのですけれども、農用地が25%、20何%とどんどん変わってってしまうのを、こちらから積極的に歯止めをかけるかどうかというところだと思うのですね。今はトレンドだから減ってしまう、だからそれを多少ブレーキはかけるかもしれないけれど仕方がないと言うか、27年度は25%に減っちゃっていますけれど、それを基本的には4分の1くらい農地なりを全国に農業県として守っていく。今日は大江委員がいらっしゃるんですけど、それを会社方式だとか中間支援とか様々なもので達成化しつつそういう農地のある千葉県というのを定住の場所に、宅地化みたいなものを考える。その辺は私も埼玉の計画をやっていますけれど、埼玉と千葉で違うのは、農地や林地が、あるいは漁業も含めた産業は豊かなのですけれど、ベッドタウンとしては埼玉に負けているがために人口が減少しているという感じがします。</p>
中村委員	<p>漁獲量も銚子港が一位じゃないですか。もったいないですよ。</p>
池邊部会長	<p>そうですね。そういうところはあまりアピールされていないので。</p>

<p>岡委員</p>	<p>日本は複数の地殻プレートの上に乗っているので、地震災害にハイリスクな上にリスクを上乗せする構造にもなっている今の日本ですけれども、千葉県も震災は必ずまた起こります。その中で各自治体、例えば私が住む我孫子市のような小さな自治体では難しいかもしれませんが、県全体を見回す県行政では、震災被害を受けにくい県土づくりに基本を置くべきだと思います。後ろの方に災害のリスクを書いているし、先日お配りいただいた強靱化計画の視点は、災害後いち早く回復するための視点。大切なもう一つの視点は減災のプランニングという視点、これが弱いと思います。例えば一つの例として、ハザードマップは作っていますよね。ハザードを受け易いところからハザードを受けにくいところへ政策誘導するビジョンがあるべきだと思います。固定資産税を上げるとか下げるような政策は複数プレートの上に乗っている日本としては必要だと思っています。これが小さな行政単位ならできないけれども、少なくとも県や国レベルでは考えるべきだと思います。</p> <p>県としては、将来に向けてお金がかからない県の管理方針が作れるかということが、私たちが所属している国土利用計画地方審議会目指すところだと思います。</p> <p>そうした基本が、県行政の担い手に必要だと思います。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>それは今おっしゃったような強靱化に向けて、税制だとか、土地利用の誘導と言いますか、ハザードマップでこの前みたいに日本であれしたところは今後あまり住まないように誘導していくということですよ。</p>
<p>岡委員</p>	<p>オランダは湿地帯に堤防を作って陸地化し、人が使える陸面積を増やしていったのですけれども、陸地化によるさまざまな不合理さ、脆弱さが出てきて、経済的な成長を達成した近年、湿地に復元する作業をやっています。日本も技術力も財力もあるうちに、将来お金がかからない県土、国土づくりに向かう必要があると思います。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>そのあたりはどうなのでしょう。</p>
<p>事務局</p>	<p>そうですね。おっしゃるとおり例えば災害の危険の高いところに規制をかけて住ませないとか、あとは税金で差をつけて移動させるとか、そういうのができれば一番いいのかもしれませんが、国レベルでもそれはまだできていない情報なので、国の状況を見ながらとは思いますが、我々が持っている制度としては、ハザードマップであるとか災害時の情報提供というのは、市町村であり県が区域しているところでやっているので、まずは情報を出していくことで、危険性を知らせて緩やかに移動してもらうことを考えていきたいと思っているのですけれど。</p>
<p>中村委員</p>	<p>千葉県はかなり埋め立てありますからね。</p>

池邊部会長	<p>それはここで言う「郊外部の住宅地の持続可能性」でも書かれていませんけれども、そのあたりの投下みたいなものを国土への投資ではないので難しいかもしれませんが、ただ先ほどの税制の話からすると、この県土の管理水準の低下みたいなものは、まさに下水道だとか、河川だとか余計なところに人が住んでいけば、それだけそこには、皆さんは感じていないんだけど実際はコストがかかっているんですね。ですからそれを岡委員のおっしゃるように、干潟みたいな形に戻すことによって、そういう部分の余計なコストはなくなってきて、自治体には安全なところに住んでいただくというようなことも方法としてはできるのかなという感じはしています。千葉県の保守的な体制の中ではなかなか斬新で、国に先駆けてトライするというのは、なかなか難しいとは思いますが、そういうものを考えられる、考えた方がいい風土というのはそういう部分にはあると思うのですよね。</p>
志賀委員	<p>一つは、県を取り巻く状況の変化みたいなところあたりなり、全体的なところなのですが、県土整備政策というのと、個別政策の関係というのが、私自身も整理できていないというのと、日本の場合、地域政策とか国土利用政策と個別政策の関係がいろいろ書いてあるけれども階層性とかよくわからないと感じているのですね。ここでも「地域」、「産業」、「自然環境」、「景観」という言葉が出てくるのですが、それが並列して出てきていて、それが政策化する中でどういう仕組みになっているのかというのは、ここまではこう考えてみましたというような案があってもいいのではないかと感じました。</p> <p>それから、環境とか景観とかを重視していく場合に、さっきオランダの話があったと思うのですが、スイスなんかだと非常に湿原景観を重視していて、国家的に貴重な湿原景観とか貴重種とかかなり具体的なターゲットというのを法律の中に書いてあったりするのですね。それは国によって県によって地域によって違っていいと思うのですけれど、千葉県としてそれぞれ個別法でそういうふうになっているのはそうなのでしょうけど、その中で千葉県として景観の保全であるとか環境の保全の中で、とりあえず今何をターゲットにしていくんだというものがあつた方が、より具体性が出てくるし、とっかかりみたいなものが出てくるのかと、打ち出しが難しいでしょうけどそんな印象を持ったというのが二番目です。</p> <p>それから三番目は、言葉の問題になってしまうかもしれませんが、5ページで「自然的土地利用への転換」という言葉とか、「自然的景観」という言葉で、「自然景観」という言葉の方が馴染みもあって、「自然的土地利用」というのが仏門では近自然的という言葉が出てくるのですけれど、自然的土地利用というのは日本ではあまりあり得ないので、その辺も結構重要だと思うのです。</p>
池邊部会長	<p>この場合は人為自然なのですよね。</p>

志賀委員	ええ。最終的に統一すればいいんでしょうけれど、持続可能性とか持続的とかあたりしますので、その辺もちょっと気がついた点です。
池邊部会長	<p>今おっしゃられた二番目の部分は、一番目にも関係すると思うのですが、今回の国土利用の中でまさに土地利用基本計画と合築するということは、土地利用調整の順位付けみたいなものも国土利用の中で考えられるということなので、そこにまさに優先度合が今までの宅地化優先と変えることもできるわけですし、もちろんこれは地域別にも調整のかけ方は違えられると思いますし、そういった意味で環境と景観の話も、昔は千葉で環境を守ったら観光はだめだと、観光と環境が相対する概念みたいに自然保護の時代はあったと思うのですけれど、今はここでもグリーンツーリズムとかそういうものも書かれていますけど、逆にその観光とかインバウンドの外国人を呼んでくるといったときに、何で呼べるかということ、自然環境や景観の優れたところでないと呼べないので、昔、観光はみやげものだったり、祭りだったりどちらかということとフィジカルなものづくりの方にいったんですけど、今はやっぱり環境そのものが売り物だったりもしますから、千葉だとまさに成田からすごく近いのに、稲穂の黄金色の風景が9月には見られるということが大きな価値だったりもする、そこで踏み込んで見られるようなところが価値だったりもするのでその辺が少し変わってきたりもする。政策の中での優先順位みたいな、今の県政でどういうところで優先順位が一番あるのかというところをもしできればお聞かせください。</p> <p>例えば工業がではないと思うので。</p>
事務局	工業は製造業とかですか。
池邊部会長	はい。
事務局	<p>今回は私ども事務局で作成したもので、元にしたものが、環境だと環境基本計画とか強靱化計画とかで、そこがまさに県として進めていかんとして書いてあるものがある、ただ今回ここに入れ込んでアピールしようと思うものは、全部を入れると分かりにくかったので、環境であれば自然再生とかですね、人口減少を契機に捉えてやっていこうというのを打ち出そうかということに、若干メッセージを持たせようかと思ったのと、防災、減災であれば、強靱化計画がつい最近策定されたところですので、それも含めて土地利用を災害がないところは機会を捉えてやっていこうということ、あと、システムは災害が起きて途絶しないようにしていこうと書いてあり、やはり強靱化計画、環境基本計画はかなり大部なので、それをみなさん県民の方々を含めて見るかというところがあるので、できることなら国土利用計画の中で、そういう重視しているメッセージというのを出していこうかということで、今言ったようなところを伝えられればということなんです。</p>

池邊部会長	<p>その辺がコンセプトというか、部会として本会議の方に提案するとき、実際に合築して今回の国土利用計画の目玉は何とか、いわゆるコンセプトとかビジョンと言われているところが一体何なのかというところを問われてくると思うのですね。それがあって初めてそれぞれの土地利用の目標も出てきますし、そういった意味では、自然再生というのは具体的には国土利用計画や土地利用基本計画の中には数字としてはすぐに出てくるものではないのですけれど、十年、二十年という中ではそういうものが出てくるわけですから、それが強靱化とかいわゆる循環型土地利用みたいな話の中で出てくる話になると思います。</p> <p>この辺はそうすると今おっしゃられた自然再生とか強靱化と持続可能性みたいなところ、その三つぐらいですかね。</p>
事務局	<p>基本方針でお示ししているような、(1) から (4) までありますけれども、(1) であれば人口が増えているところも当然認識はしているのですが、管理水準が低下する中で、都市機能を集約して他の機能とネットワーク化していこうという、いわゆるコンパクトシティ的なところ、当然地域の実情も踏まえてですが、そういうところを打ち出すとか、スマートという概念であれば農地とか林業についても、農地を集積して集約化して生産性を上げていこうとか、そういうところがスマートな土地利用というところを出していきたいというところが一つ、また (2) の環境で「営みとともに在る」と書かせていただきましたけれど、なかなか再生というのは一言でいうのは難しいのですけれども、ただ人口減少していく中で、そこを好機として捉えて、一つの契機として自然の維持、再生をやっていこうというのが、岡委員のおっしゃったような強靱化の中で書かれているようなリスクの低いところに誘導していこうという話プラス、システムが途絶しないように仕組みを作っていこうというところ、あとは「多様な主体の交流・連携・協働」というところで、これもなかなか難しいのですけれど、公的主体だけではなく、これもずっと言われてはいるのですけれど、事業者とか市民団体もちゃんと県土利用に関わっていただきたいなというところで、交流をしていくことによって、県土管理の関心を醸成していこうというところを出していければ、その先に事業者とか県民が管理に参画していければいいかなというところを打ち出していければと考えております。</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>この「グリーン・ブルーツーリズム」というのは、県内では大分やっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>まさに農林部でやっておられて、大々的に計画にも書かれているようなものなので、入れていければと思っているのですけど。</p>
農林水産政策課	<p>やっていくのはやっていくのですけれども、全体の土地利用の中で中心になるというよりは、付け加えるような理解でお願いしたいです。</p>

事務局	<p>「ツーリズム」自体は「管理」でないのは認識しているので、この前も交流を図っていこうという話をされていたのもあったので、「関心を醸成していこう」という中で、こういうものを取り入れていってというところも書かせていただきたいというところ です。</p> <p>この部分は（４）になっていますので、（３）までが重要な部分で、こういうところで補完していこうという部分であるという考えです。</p>
池邊部会長	<p>産業は売れたり理解を得たりというのが大事なので。</p> <p>今、勝ち組と負け組がはっきりして行って、インターネットでの農業など、どんどん違ってくると思いますので、昨日も私は東京のアセスで豊洲の話が都庁の中でやっていたのですけれども、今はああいうところで集めるかもしれないですけど、もう五年もすると、ああいうところに全部集約するかというと、そうではないので、船の中で何トンでいくらみたいなのが、ネットの中で株価みたいな感じで国際的に決まってくるかと。それがどこに輸入されるのか、輸出されるのか、あるいはどこかの企業に買い取られるのかという感じにたぶんなって行くと思うので、そういった意味では漁業の形も、日本は少し遅れていますけれども変わってくるのかなという感じはします。</p> <p>あと「森林への関心」のところも、県民の森は皆さん、県民が行くところですけども、私は東京で育ちますと、富浦は学校の施設があったので、毎年よく行ったのですけれど、長野とか山梨とかには東京から行くわけですけども、林間学校とか遠足に行くところは、比較的千葉の方になかなか来れない状況というか、あまり交流がなかったような状況があるのかなと思っていて、合宿も結構辺りなところだと、合宿にも力を入れていたりするのですけれども、千葉の場合はそこまでしてもらわなくてもいいという感じで、いわゆる大学生がたくさん来て、合宿に来るというようなところもあまりないので、そういった意味では千葉県の豊かさまみたいなものを、都市住民があまり知る機会が比較的少ないのかなという感じがすごくしています。</p> <p>ですからこういう教育の森とか県民の森とかというお話は、とてもいいのかなと。県民だけでなく、他の都道府県からの交流みたいな感じで結びつくとよりいいのかなという気はしています。</p>
事務局	<p>すみません。先ほどの質問に答えてなかったもので、今ちょうど政策企画課では県の基本的な計画である総合計画の策定作業が進んでいます。</p> <p>総合計画の方ももう２回目の改定で延べ１２年間に渡る計画になるので、一貫して「暮らし満足度日本一の千葉県をつくろう」という方針を打ち出しています。要は県に来る人、あるいは県に住んでいる人が安心して安全に暮らせる社会をつくらなければならないという考えを思っていますので、そういった意味で、満足度を上げるために、安心・安全も確保するし、きちんと稼げる産業も育てるし、その産業を支え、暮らしを支えるインフラといったものもきちんと整備を進めて、</p>

	<p>これから人が減っていく中で、拠点化していってしまう中で、きちんと圏央道であったりアクアラインであったりとかそういったインフラをきちんと使っていきたいと思いますという方向です。どれを中心にやっていくかという産業の優劣はつけがたくて、今あるもの、千葉が持っている力をどんどん輝かせていこう、磨きをかけていこうというところにあります。先ほどちょっと話題になった農業についてもやはり二位奪還したいという思いもありますし、やはり元からあるコンビナートであったり成田であったりというところも、それを活用して県全体が底上げされればいいという方向性で動いています。今千葉にある特性をとにかく生かして、県民、あるいは訪れる人が満足できる生活を送れるような千葉県をつくっていきましょうという方向で、今動いています。</p> <p>あと、やはり圧倒的な危機感は、人口減少、少子高齢化をどう克服していくかということで、一人ひとりが活躍していける社会をつくっていかねばならないということにも光を当てようとしています。国土利用計画は、県の土地利用のあり方を示す計画ですので、今まで御指摘いただいたような点を、千葉県の特性と絡めて、実現不可能な部分もあったとしても、その辺はあり方ということで、まだ包含できるものがあればそういったものを示せるような計画になればと思っております。</p>
池邊部会長	<p>今おっしゃられたように統合化して何が新しくなるかということ、土地利用基本計画というのは、五地域の追認でしかなかったものですし、逆に子国土利用計画というのは、シミュレーションして絵に描いた餅のようなものだったわけで、それをどう政策とリアルにやって、まさに県土のビジョンというのを明確に出すか、というところが大きな方針だと思うので、今おっしゃられたような四つの方針みたいなものが、うまく県土利用の目標像に明確に出せるといいと思いますけど。</p>
志賀委員	<p>やはりどの産業をとすることはなかなか難しく、多様性みたいなものが地域ごとに描けて、将来的にどれがどう発展していくかということとはなかなか分からないのだけれども、そういうキャパシティがあるようなあり方みたいな、それぐらいなのですかね。</p>
池邊部会長	<p>暮らしというところにベッドタウンではない、まさに産業とも結びついていて、千葉というあり余る地域資源が美しいとか、いい場所で住んでいくというのが、その辺がどうやったらうまく伝わるのかなという部分があり、今回の中だとやはり一応四点に今基本方針のところをまとめていただいているのですけれども、割と総柄的になっていくと、日本全国どこでも通用してしまうという感じにもなってしまうので、その中の強弱というのか、そのあたりが文章の中にもうまく取り入れられて、それが具体的な規模の目標にも、こういうことだから規模の目標は今回こういうことになっているのだというようなところに結びつけばいいとは思っています。</p> <p>あと、大江委員から意見概要をいただいておりますので、一つは「規</p>

	<p>模の目標の設定に際しては、農地を含めてその推計の根拠を明確にしておいてほしいと思います」ということで、先ほどの参考の2の「年平均減少農地面積から推計した」ものが前のもので、設定方法は「千葉県農業経営基盤の強化の促進に関する基本方針」における目標年次の農用地面積と整合を図った」ということだと思います。</p> <p>あともう一つが、今もうそういう議論になっているかと思うのですが、「本部会も今回は後半となり、出口を意識したとりまとめの方向へ議論する時期かと思しますので、例えば産業振興の議論については、担当部局において方策が進められている部分があるために、本部会においては土地利用の面からの議論に焦点を当てて議論することがよいと思います。」ということ、今のところ、皆さん土地利用というところに話を集約しているので、問題はないと思います。</p> <p>この1については、具体的に今の御議論を踏まえて、修正がないというべきなのか、何か発展させていただくのか。今の四つの方針というのが、私は先ほど「スマートな県土利用」というのは一体どういうものが具体的なのですか、というのを質問しようと思ったのですが、それがこの文面からは、なかなか分からないので、「スマートな県土利用」というのを推進しようとするなら、それがこの中から分かるようなもの。</p>
志賀委員	<p>千葉県があえて言うのであれば、これこそスマートだというものを千葉県なりのスマートさというものがあればいいと思います。</p>
中村委員	<p>おっしゃるように「暮らし満足度日本一」という言葉がすごくぴったりきて、それを目指してこの利用計画はあるのだということが私の中ですごく納得できたのですが、読み返してみると千葉県の特色はあまり出ていなくて、そこがぼやけてしまって、せっかくのこのスローガンみたいなものが生かしていないので、もう少し具体的に県なりのものというのが、農業とかもう少し農用地とかそういうところに入ってくるべきものなのではないでしょうか。</p>
事務局	<p>また努力をしようと思うのですが、実際の課題としてはこういうものがあって、やはり地域が多様なので、都市地域もあれば農業地域もあるので、それごとにスマートな利用を目指していくということを書くのかなと思っていて、そこで地域特性を出そうとすると、文章を書いている中でこういう地域ですとか例示を書くくらいでなかなか難しいのかなという思いもありつつ、また検討してみたいとは思っています。</p>
志賀委員	<p>森林に関して言うと、さっき全国的なという話があったのですが、この四つに即して、もう少し森林だけではなくて他のところもそうかもしれないけれども、それに寄せたようなことで実行可能な何かがあるかないかではと。例えばこの書いてある中では、47都道府県の中で千葉県はかなり下の方になる項目だと思うのですね。例えば環境・景観の維</p>

	<p>持再生であるとか安心・安全なみたいなことと言ったときに、土地面積の3割を占めているわけですから、例えば鉄道であるとか、道路であるとかの脇の森林がいかに保全されるかという問題を一つとってもいろんな課題があるのだらうと思うのです。だから森林の白書に書いてあるようなことを引っ張ってくるようなことから、ちょっと千葉らしさを出していただけると、それとうまくこの四つの柱というのが、それなりに納得いくと思うので、それを次回以降に向けてもうちょっとさっきの多様性みたいな問題とそれぞれの土地利用の中で、そこに結びつけてどんな展開ができるのかというようなところを示していただければいいと思います。</p>
池邊部会長	<p>森林課はどうですか。千葉県の特徴ですとか。</p>
森林課	<p>今おっしゃられたように、下から二番目とか三番目とかありまして、なかなか何が千葉らしさというのかは難しいところがあるとは思っていますよね。さっき言ったように場所によっても、ゾーンによっても全然違うので、東葛地域と南房総地域は全然違いますし、なかなかどれを千葉らしさと言ったらいいのかは非常に難しいです。</p>
志賀委員	<p>森林が主人公にならなくてもいいと思うのですよね。要するに他の景観とか安全とかということとの関りで森林の管理とか保全というのがこういう形で果たせますよというものでいいというような気はします。</p>
池邊部会長	<p>さっき委員がおっしゃったような鉄道だったり道路だったり、そこから一番見える森林がけっこう林地が多い、それは管理された森林のあり方とは違いますけれど。</p>
志賀委員	<p>森林の整備ということを言うにしても九州とかみたいに木材生産を目的とした森林整備というものもあるのですけれど、そうではない、例えば安心・安全みたいなこととか、あるいは農地との間の林縁みたいなところをいかに野生動物とか生物多様性保全のために整備しつつ、木材は木材として使っていくとかというようなそんな問題の立て方とかいろいろあるのだらうと思いますので。</p>
池邊部会長	<p>その辺が県民の方により伝わるようなものがあるといいとは思いますが、まさにおっしゃるように木材生産とかそういう話ではないし、高知とか京都みたいに森林税を取るかといったところでもないかもしれませんし、全部が水源かというところも割とそうではないかもしれないのですけれど。</p>
志賀委員	<p>3割という森林率が、ヨーロッパと同じで3割に下がってしまったのを、大体3割くらいで維持しているという感じなので、今千葉はちょうど3割でだんだん下がってきていて、豊かさは正直変わらないという気</p>

池邊部会長	<p>はしています。</p> <p>それで私も、さっきお話したのは、農地25%よりも今は下がっていますけれど、森林30%というあたりをある種の県民の暮らしの満足度を維持するための千葉らしさとして、やはり県の中にそういう資源があって、そういうものを身近で、地産地消のものを得られるという部分を残しておくべきなのかなという感じは非常にするのですけれども。</p>
志賀委員	<p>絶対的な面積、分布とか、分布という意味は房総半島と東葛と率が違うという分布もあれば、面的な分布の中で固まっているのと、モザイク状にあるのはその地域なり生態系にとっても意味が違ってくるので、そうすると面積なり分布のどういう状態を目標とするのかということもあると思います。</p>
池邊部会長	<p>参考の中にも後半地域別のものも出てきていますけど、ちょっとこれで申したいのは、参考の1ですけれども7ページと、8ページの「農地転用許可等」と「森林の開発許可」がすごく27年は伸びているのですけれども、これは今28年に延ばしていくと、どれくらいあるのでしょうか。それともこれは27年が特異な年だったという考えなのでしょうか。</p> <p>農地転用は、26年とか25年と比べると、「その他」のところはすごく大きく、物流だとか大規模商業とかそういうものに変ったとか、あとは太陽光とかもそうかもしれないのですけれども。林地開発の方も27年だけはぐっと伸びているので、それはそのまま、より上がっているのか、また25年や26年の状況に戻っているのか、どんな具合ですか。</p>
事務局	<p>うちの方では27年度までしか出ていませんので、御担当されているところでどこまで出ているのかということですが。</p>
池邊部会長	<p>農地転用はどうか。</p>
農地・農村振興課	<p>28年の実績は今手元にはないのですが。</p>
池邊部会長	<p>感触で構いません。27年については住宅用地も倍増なっていますよね。</p>
農地・農村振興課	<p>27年については、市街化区域での住宅の届出が多かったと認識しています。</p>
池邊部会長	<p>特殊事情ということですね。 林地開発許可についてはどうですか。</p>

<p>森林課</p>	<p>森林の方は、私も詳しい数字は持っていないのですが、傾向的には先ほどおっしゃられたように24年から25年にかけて急に増えていて、これはやはり地震による再生可能エネルギーの太陽光パネルの影響でここから非常に増えたので、その影響が非常に大きくて、その傾向が多分まだ28年度も続いていると思いますが、買い取り価格等が大分下げられたということもありまして、このまま右肩上がりが増えていくということはないと思います。ちょっと28の数字が分からないのですが、ピークは過ぎていると思います。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>分かりました。やはり林地の方は太陽光が原因ということですね。 具体的な文面の方は、今お話があったような感じでもう少し千葉らしさを出していただくという感覚はありますけれど、具体的な目標値については、資料の2と参考資料2のことについてはどうでしょう。全部のことを皆さんにお諮りできないので、粗々で良いのですけれど。</p>
<p>岡委員</p>	<p>少し離れますが、最初に「本格的な人口減少」と言いながら千葉県は600万いますよね。北欧の一つの国が大体500万くらいだから、日本は人口を持ちすぎという感じが私はします。県人口600万はいろんなことを実現しやすいと思いますし、この聞き飽きた「人口減少・高齢社会に突入」について、もう私たちは発想の転換をしないといけないだろうと思います。年齢構成は別として、人口はもっと減ってもよいとも思っています。頭に「本格的な人口減少」と書いているのは、人口減少イコール悪いという既成概念。その概念は、住民も行政も変えていった方がいいと思います。その点がまず一つ。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>人口減少と高齢社会をポジティブに捉えるということですよ。</p>
<p>岡委員</p>	<p>多分500万人ぐらいの一国だったら非常にやりやすい、今一億いるから難しいのであって、500万の単位は素晴らしいと思います。</p>
<p>池邊部会長</p>	<p>そういうことでは社会が蔓延しているということは書く必要があるけれども、そこがより千葉県で進むからどうだというネガティブな書き方はしないということだと思います。</p>
<p>岡委員</p>	<p>県土のいろんな用地面積が10年間にいろんな比率で減っていて、例えば林地も減ったが、最近の林地は太陽光パネルの開発が大きいだろうということ、農地についても毎年徐々に減っていると。でももっと長期的に見れば、例えば第二次大戦後に印旛・手賀沼も日本人のお米を増やそうとする国策で一気に面積が減ったのですよね。それまで徐々に減ってはいたけれど、ある時期に一気に減った、100年ぐらいのスパンの中での位置付け、数字の読み取りというのが、あった方がいいと思います。首都圏の近くにあって、役割は神奈川県と違い、第1次産業が強か</p>

	<p>った。日本の中で十分役割は果たしてきた、今も果たしているという部分のプライド。今後、例えば食料の自給の強みというのを千葉県は担っていかないといけないという、食料安全保障を担っていく、その歴史的なプライドはやはり持つべきだと思います。その歴史というのが、限られたスペースの中で書いていくのはなかなか難しいだろうと思いますけれども、腰を据えた県政の在り方と、県史を捉えるというのが今後にあるべきだと思います。</p>
池邊部会長	<p>前回も話したかも知れませんが、日本人は問題点と課題を書きなれていて、自分たちのいいところとか誇れるべき、今プライドとおっしゃられましたけど、千葉の持っている資源を再認識するというのが、東京かなんかよりも強いという部分が、実はもうちょっとあっても、これがまさに暮らし満足度全国1位になれるという部分なのかという気はしているのですけれども。</p>
志賀委員	<p>時間軸の視点をちょっと入れてもいいかもしれないですね。さっき土地利用ということで空間の話はかなり出てきていて、その他の多様性みたいなものも出てきているのだけれども、当然歴史の中で、今の時点でのくらいを見通して今こういうことを言っているのかみたいなことを、簡単であってもあった方がいいと思います。</p>
池邊部会長	<p>まさに今やっている話として、平成37年みたいなのが出てきているので、平成37年というこれから10年後、これからどういう千葉にとっての将来なのかという、そこら辺の時間軸が、先ほど私が言った平成16年から27年までの変化とこれからの変化とは、自ずと違ってくるので、日本は人口推計もこういう面積も日本的には過去のトレンドがもう一回あるという前提でシミュレートしていますけれども、それが今大きな変革期というか、東京オリンピックはありますけれども、その後というのはどんとへこむ部分もあると思うので、そこから37年までというのは、結構どの都道府県でも正念場になってくるという気がします。そういう中では千葉県は有利だというふうに考えていただいた方がいいと思います。</p> <p>区分ごとの規模の目標についてはいかがでしょうか。先ほどは宅地については御意見がありましたけれども。これで言うと森林は全国の計画だとあまり変わっていないのですよね。千葉の方の推計値が左の方に出ていて、右の方に全国計画が出てるわけですけれども。千葉の平成37年の推計値と根拠というところを見ていただいて、そのあたりはいかがでしょう。</p> <p>気になるのは、さっき言った平成16年から平成27年の年平均増加面積から推計したというのが全て根拠になっているので、それで果たしているのかどうかというのは、それに対して多少県政としての誘導の方向性だとか、逆に今後の10年を考えたときの経済性だとかその辺をどう考慮するかということだと思います。</p>

事務局	<p>今回は初めてお示ししたので、推計という形で出しました。これからこの内容については、それぞれの担当と計画のすり合わせをしていくので、他に何か考慮すべき要素がありましたらお願いいたします。</p>
中村委員	<p>目標とするものは暮らし満足度という、今いる人たちの満足という観点と、新たに千葉県をもっと人口を増やすとか盛り上げていこうというもの、活性化していこうというそちらの面とどちらなのかなと私は思っていたのですが、今回、今いる人たちの満足という視点で考えると、例えば農地をもっと増やしていこうとか、森林、宅地を減らしていこうとか、そういった計画もありなのではないかとちょっと思いました。掲げるものが何なのかによって、目標数値はかなり動いていくと思うので。</p>
池邊部会長	<p>委員のおっしゃる「今いる人」と言ったときに、今いる千葉の若い人たちが東京に住もうとか、東京に職場があるから埼玉に住もうとかではなく、やはり千葉に住み続けたいというふうに考えるかどうか、多分そこだと思うのですよね。</p>
中村委員	<p>満足というのは、利便性だけではないではないですか。暮らしの満足度は心の問題なので。例えば税金を取られても、安心して住めるとか、生活面のほうも満足に繋がるでしょうし、学校とか通いやすいですとか、開かれた学校になっているとかそういう意味でも満足度は変わってくると思うので、どこを目標に向けるかによって、この10年間描く未来が変わってくるのかなと思います。</p>
池邊部会長	<p>それとその農業についても、一昔前だと農業は泥臭い産業で、大学に行ったら継がないなんていう話もありましたけれど、今やはり企業が入ってきて工業製品のように作られるようになってきて、組織も会社組織で、家族だけでずっとやっているというのから変わってきてますから、そういった意味では若い人たちが土木工事や農業から離れるのではなくて、戻っていくというような考え方をした方がいいですし、戻れるだけの資源を千葉は持ち合わせているし、住まいとしてももちろん持ち合わせていると思うので、多分県民の方が豊かすぎて、あまり豊かさを感じていないというのが私は一番だと思うのですけれど。</p>
岡委員	<p>よろしいですか。先ほどオランダのことを例に出したのは、さっき印旛沼、手賀沼のことをお話したのですけれども、農地として今は活用されていますけれども、もっと遡ればあそこは湿原だった。湿原は生物生産性から言えば、非常に高いが、経済面で評価するすべがなく、一律に悪い、荒野とみなされて、農地に改変され、一定の重要な役割を果たしてきました。統計的に10年ごとに各面積の変化を追うことは一つの見えやすいやり方ですけれども、さらに100年単位でその前を見れ</p>

	<p>ば、あそこはすごく大きな湿地が連続していたのですけれど、それを人間が人間の理由で断ち切った。もしどこに生態系の豊かなゾーンを将来残すかという視点で見れば、昔の地形に従うのが一番お金はかからないし、後のメンテナンスもかからないです。だから先ほど申し上げたお金のかからない県土の作り方というのは自然環境の復元。できるところは昔に戻していく。水田からの撤退は農地の減少に直結し農家の減収につながるかという、農家の人たちに収入を得ていただくことは政策的にできるかもしれない。市場と密着したやり方は千葉県はまだあまり取り入れているとは聞かないですけれども。災害に強い将来お金のかからない県土の作り方は、元々の地形にできるだけ戻してやれるところはやり、スプロール化をさせないという鉄則になろうかと思います。</p>
池邊部会長	<p>スプロールはもう何十年もやってきたものですが、そこを阻むというのは千葉にとっても大事なことなのかと思います。</p> <p>お金のかからない県土の管理のあり方は、自然再生とかそういうようなところですね。ただ志賀委員がおっしゃられたように必ずしも自然的というのは。</p>
志賀委員	<p>人為的自然ではない人と暮らしの中で育まれてきた、里山とかそういう捉え方でいいと思います。</p>
池邊部会長	<p>日本は基本的に人為的自然だと私は思っていますけれども。</p>
志賀委員	<p>環境・景観のところでネットワークみたいなものが入ってますけれども、中間領域といいますか例えば森林行政でやっているところと環境部局でやっているところというのは縦割りであるのでしょうかけれども、森林の中の生物多様性みたいな問題というのは、当然両方が関わるようなものだと思うのです。それがそれぞれの個別法の中で県は動いていくのだと思うのですけれども、そういう地域に下ろしたときに、そういうネットワークだとか中間領域をどういう形で協力してやっていくのかというところがあるという感じはしています。</p> <p>(4)「多様な主体の連携・協働・交流による県土管理」にいくつか挙がっていますが、行政といっても、国と県と市町村があるのだろうけど、少なくとも行政側としてはどういうメッセージが書けるのかというところが出ると、連携する方も連携しやすいという感じがします。</p>
池邊部会長	<p>ここは何かイメージとか決められているものって具体的にありますか。</p>
事務局	<p>なかなか難しいのですけれど、他の事業者なり県民の方々なりにメリットを感じていただけないと参画は促せないとは思っていますので、そこに具体的なイメージはないのですけれど、少なくとも参画でこういう自然の触れ合いはそもそもそうなのかもしれませんけれど、そういうメ</p>

池邊部会長	<p>リットを伝えて参画を促していくことが書けるのであればいいかなとは思っていますが、なかなか手段が難しいと思っています。</p> <p>ただ、ここにさっきの暮らし満足度ではないですけども、前の方で言うとライフスタイルみたいな話の中で、県民がこういうものの中で、県土管理に参加する中で豊かさを感じてもらおうとか、それに満足していただくとかということが大事なのかという気はします。</p>
事務局	<p>そういうことは書けると思うのですが。</p>
池邊部会長	<p>私は「循環型社会の形成」の中で廃棄物の排出抑制、不法投棄の防止、建設発生土の有効利用、再生土の適正利用とか採石場とか砂とか君津とかいろんな場所を構えている千葉県としては、この循環型社会の中でこういうものをどういうふうに捉えていくかというのは、すごく大事だと思うのですが、ここについては何か環境部門で積極的に何かやっているというのはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>環境政策課に意見照会して、いただいたものを今見させていただいている状況でございまして、廃棄物の話であれば、まさに15ページに載っているような施策は推進していくようなつもりだと聞いております。</p>
池邊部会長	<p>管理放棄された場所になるというのが一番防ぎたいことだと思うので、特に千葉県というのは、都心部に近いがために、これは埼玉も同じですけど、結構そういうものが投棄される部分が多い所なので、そういった意味ではこのあたりですね。</p> <p>「循環型社会の形成」と書くのか中に書いてあることは結構新しいですけど、このカッコ書きが「自然環境の保全・再生」、「循環型社会」とか、私たちから言うと前時代的というか、「温室効果ガスの排出の削減・吸収対策」、「良好な景観の維持・形成」とかが、これから37年に向けてのビジョンというと、そこら辺の言葉が少し新しくなってくる、より前向きにポジティブにできるものがあればそれが一番いいのかなとは思いますが。</p> <p>「県土管理」は何かいい言葉はないですか。行政がやるのはあくまでも県土管理なのですが、例えば連携・協働でやるといったときに、いわゆる都市で言うエリマネみたいなことで、要するに「県土管理する」ということが、地域コミュニティとか、あるいは一人暮らしの高齢者とかそういう人のまさに安全・安心を実は県土管理が担うというニュアンスが、私の中にはあるのですが、そういうものが「県土管理」と言ってしまうと、ゴミ捨てとか下草管理とかそういうものに参加しろと言っているかのように思ってしまうと、それだけでは実際はないという感じがするので。</p>
事務局	<p>なかなか今フレーズが思い浮かばないので。</p>

池邊部会長	<p>例えば千葉は棚田もありますけれど、ああいうものがフェイスブックやSNSで発信されるということも、一つの県民ができる管理の一つのあり方だと思うのですね。皆がそこを写真に撮って、そこを美しいというふうに県民も思って、それを表に出していくというところで。</p> <p>私は棚田なんかも危ういなと思っているのは、団塊の世代ぐらいまでは、棚田をオーナー制度でたくさん担い手とか支えている人たちがいるのですけれど、その下の世代になると結構手薄になってきて、そうやってくると、まさに今の40代、50代がどういうふうにそういうものを含めて支えていくかというのは、少し考えないと難しいとは思っています。要するに農業に対するノスタルジックみたいなものが、団塊の世代までは学生運動とかあった中で、自分たちの親とかおじいちゃん、おばあちゃんがやっていたというところで、企業戦士だったから歳を取ったら農業をやりたいとか、戻るということは明確なのですけれど、50代の人間になるとそういう感覚が周りにもあまりないので、農業に行くんだったら、子供がやめても自分がサッカーやっているというような人間も多くなっているんで、40代、50代が都市・農地の交流の促進みたいなところでもう少し入ってくる、そのときに食だとか料理だとかそういう作るというか、クリエイティブな部分をもう少しふやした方がいいという気はします。</p>
志賀委員	<p>さっき「県土管理」がどうかというような話がありましたけれども、これは全部土地に関わることなので、土地というすごくハードな実態のあるものでできているのですけれど、多様な主体の連携・協働によって、もっとソフトな、情報も含めた交流空間みたいなものがバーチャルな世界も含めてあって、それが県土管理に結びつく予備軍みたいな人も呼び込みながら、その一部がグリーンツーリズムとかにというようなスタンスなりもあってもいいのではないかと。それは必ずしも県民でなくても、東京なり何なりの中で、千葉県に関心を持つ人がいてというような括りもあってもいいのではないかと思います。</p>
池邊部会長	<p>岡委員、自然再生の担い手というのはどういうところに求めたらいいのですか。</p>
岡委員	<p>所得倍増の時代に育ってきた団塊世代は、後ろにあった雑木林がなくなることを体験しても自然接触は十分した世代です。だからさっき会長がお話された自然が豊かな場所に戻って生きたいというノスタルジアがあると思います。それが既がない時代に生きてきた世代はノスタルジアも何も描けない側面があります。自然再生というのは、私がいつも考えるのは、例えば日本の場合、縄文時代から延々と人の営みがあって、よくこれだけきれいな国を維持してきたことです。日本の農民としての自然に対する畏敬というのは血の中に入っている。自然再生は、ではどこまで戻すのか、ということ。原始自然は無理なので、じゃあ100年</p>

	<p>前なのか200年前なのか。私はヨーロッパに行く機会が多いですけども、いいなと思っている北欧の子供たちは国際競争力はトップで、自然接触はすごくさせているのですよね。周りにすぐ自然があるから幼稚園児から泥んこになりながら。それぞれの地域で教育方針を決めて、その風土に合った教育をそれぞれ受けながら大きくなっていく。</p> <p>こうした北欧と今の私たちの状況は違いますが、自然再生はどこまでやると一番いいのかというのは、私的には恐らく所得倍増の前のところで、尚且つテクノロジーを日本人は体得して、落ちつつあるけれども競争力はまだ持っているので、昔にそのまま生活水準が戻るのではなくて、自然を豊かにクリエイトして戻していきながら、昭和20年、30年ぐらいのところまで、知恵を使えば戻っていけるだろうというふうに思っています。</p> <p>千葉県では里山は本当に大事な部分で、里山の中で農業をやったりあるいは林業をやったりで、農業と林業が結びついていて、農地をやるためにはすぐ山があって、その落ち葉を集めてたい肥を作り戻してやる、その中でいろんな動植物がおのずから共生していた、そのコアな部分というのは千葉県の特色だし、平坦な地形が多い中で林地もあり、その僅かな地形差で水が流れ、水源も涵養され、そうした部分は千葉県の海、山、里というスローガンにふさわしい、他県を追い付け追い越せではなくて、千葉県の豊かな面のクオリティをさらにもっと高めていくにはどうしたらよいかというところに集約をさせていくと、恐らく新しく生まれ育つ子供たちも、自然接触の中で情操が培える。海、山、里を持つ千葉県の強みと特色になるだろうと思います。</p>
池邊部会長	<p>ありがとうございました。質という言葉が出てきたので、そこはとても大事な話だと思います。自然再生と言っても、元々のすごい自然に、原始の自然に戻すわけではなくて、少し前の所得倍増の前のレベルに戻すということですね。</p> <p>そろそろ時間が来てしまいました。</p> <p>皆様から何か最後に一言ありますか。</p>
中村委員	<p>さっき自然再生のお話があって、今子供の学校とかで農業体験とかをすごくやっていて、私はいつも生協に入っていて、農業体験ツアーというのに申し込んでいるのですけれど、なかなか当たったことがなくて、かなりの方がそういう自然的なものに田植えですとか畑仕事ですとかそういったものに興味を持っているのでないかと思います。今若い方がかなり農業をやられているので、そういうきっかけさえ作って、自然に触れ合う機会を作っていくと、もっと農業人口とか、特に林業とかは本当に全く分からないので、そういったものに触れ合う機会すら多分ないと思うので、そういうのを県とかが主導になって、交流会のようなものをやったら、これは楽しいとか、こういうふうに行っているんだとか興味を持つことになって、担い手がどんどん増えてくるというふうに、長いスパンで見ながら社会を循環していくと思います。</p>

池邊部会長	<p>うれしいですね。若いお母さんにこういう発言をしていただくと。議論の途中でしたが、結構みなさんからいろんな意見が出ましたので、難しい宿題にはなるかと思えますけれども、少しその辺を反映していただくというのと、次回に向けて、先ほどあまり議論はなかったですけれども、推計の根拠みたいな部分も少し見直しながらお願いします。それでは事務局の方にお返ししたいと思います。</p>
事務局	(説明)
池邊部会長 事務局	<p>今回の修正バージョンもお願いします。 骨子案は少しコンパクトにしようと思います。</p>
池邊部会長	<p>少し千葉らしさが分かるような感じで、コンパクトにしていただくということでよろしくお願いします。</p>
志賀委員	<p>規模の目標は、県一本の数字で出てくるのですか。県一本だとなかなか意見が言いにくいというか、もうちょっと地区別、エリアごとに。</p>
池邊部会長	<p>一応エリアごとの話になると思います。今回はそこも取り入れてということで。</p>
司会	<p>長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。 それでは、以上をもちまして、千葉県国土利用計画地方審議会第4回国土利用計画調査検討部会を閉会いたします。</p>